

東北文化学園大学リハビリテーション学科 紀要  
執筆要項

別途に配布するワードファイル（論文雛型）を使用して、以下の要領で作成してください。

**【掲載の限度】**

- ・和文の場合は、図表、参考文献含め10ページ以内で作成する。（1ページあたり1638字）
- ・英文の場合は、参考文献を含め5,000語以内で作成する。

**【題目】**

論文の題目と副題はコロン（:）でわかる。

**【字体・フォントなど】**

- ・ 題名は明朝体（アルファベットは century），フォントサイズ 16 で記載する。その他（著者・本文・注釈など）は明朝体（アルファベットは century）フォントサイズ 10.5 で記載する。
- ・ 本文中の見出しは太字を用いる。読点は「，（全角）」，句点は「.（全角）」に統一する。
- ・ **和文**の原稿は常用漢字，新かなづかいを用い，学術用語は「医学用語辞典」（日本医学会編），「整形外科学用語集」（日整会編）などのできるだけ従うものとする。論文中の人名は原則として原語で，数字はすべて算用数字で，日本語化した外国語はカタカナ（この場合「」は不要）で記載する。
- ・ **英文**の原稿は**アメリカ心理学会（American Psychological Association）発行の「出版マニュアル第5版」（Publication Manual 5th edition）に準拠すること**

**【要旨】**

- ・ 和文要旨は400字以内で途中で改行は加えない。
  - ・ 英文要旨は400語以内で途中で改行は加えない。
- \*和文の場合は，英文の要旨をつけ，英文の場合は，和文の要旨つけること。

**【図表】**

スペースは定められた余白より内側で本文2列分もしくは1列分を用いて挿入する。

**【文献】**

- ・ 本文中の引用箇所には文献番号を記載する。  
例：1)2)3), 1)5) など
- ・ 欧文の引用文献の表題名は，頭文字以外はすべて小文字を用いる。
- ・ 「,」「.」に注意して記入する。

**1. 雑誌の場合**

- ・ 「著者名（姓を先とする）：表題. 誌名 発行年； 巻：頁。」で記す。
- ・ 雑誌名の省略は，和文雑誌はその正式な略名を用いる。
- ・ 原著論文でははじめと終わりの頁を記す。
- ・ 著者名は最初の6名まで列挙し，その後に「・・・他（et al.）」を続ける。

東博彦：寛骨臼の発育と病態。日整会誌 1989；63：377-394.

Parkin DM, Clayton D, Black RJ, Masuyer E, Friedl HP, Ivanov E, et al. Childhood leukaemia in Europe after Chernobyl：5year follow-up. Br J Cancer 1996; 73: 1066-12.

Vega KJ, Pina I, Krevsky B. Heart transplantation is associated with an increased risk for pancreatobiliary disease. *Ann Intern Med* 1996 ; 124 : 980-3.

## 2. 単行書の場合

・「著者名 (姓を先とする). 書名. 版. 発行地 : 発行者 (社) ; 発行年.」で記す

### a). 著者が個人名の場合

Tax HR. *Podopediatrics*. 2nd ed. Baltimore : Williams & Wilkins ; 1980.

### b). 著者として編集者, 編著者の場合

Norman IJ, Redfern SJ, editors. *Mental health care for elderly people*. New York : Churchill Livingstone ; 1996.

### c). 単行書内の章の場合

Phillips SJ, Whisnant JP. Hypertension and stroke. In : Laragh JH, Brenner BM, editors. *Hypertension : pathophysiology, diagnosis, and measurement*. 2nd ed. New York : Raven Press ; 1995. p. 465-78.

## 3. 学術集会発表論文の場合

Bengtsson S, Solheim BG. Enforcement of data protection, privacy and security in medical informatics. In : Lun KC, Degoulet P, Piemme TE, Rienhoff O, editors. *MEDINFO 92. Proceedings of the 7<sup>th</sup> World Congress on Medical Informatics ; 1992 Sep 6-10 ; Genova, Switzerland*. Amsterdam : North-Holland ; 1992. p. 1561-5.

以上.

## 東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科紀要 投稿規定

本学科が発行する機関誌の名称は、「東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科紀要」とする。

本誌は本学医療福祉学部リハビリテーション学科の研究活動の一環として設けられたものであり、学術研究の発展と教育の向上を図ることを目的とする。

### 【投稿資格】

1. 本誌への投稿は本学科の教員（非常勤を含む）、大学院学生、卒業生・修了生、本学の前身である専門学校卒業生、およびその共同研究者、あるいは紀要委員会の長が依頼した執筆者とする。

### 【論文の種類・長さ】

1. 本誌に掲載される論文の種類は、原著、症例報告、報告、短報、その他とする。
2. 投稿原稿の種類と内容は以下のとおりである。
  - 原著：独創的な研究論文および科学的な観察等
  - 症例報告：症例に関する新知見または独創的な試みに関する報告
  - 報告：独創的で斬新な調査研究
  - 短報：独創性があり、速やかかつ簡潔な発表を期待する研究報告
  - その他：紀要委員会の長が許可、もしくは依頼する内容の報告・論文など
3. 原稿は、原則として別途定める執筆要項に従って作成する。

### 【論文の投稿・受理】

1. 投稿者は、原稿と電子ファイルを記録したメディアを10月末日までに、紀要委員長まで提出するものとする。なお、郵送による場合には、期限当日の消印をもって有効とする。
2. 投稿原稿は他誌に未掲載のものでなければならない。

### 【査読】

1. 原稿が投稿された場合、紀要委員会は適任者2名を選出し、査読を依頼する。
2. 査読の意見書等の様式は、紀要委員会が定める。
3. 紀要委員長は、査読者の意見書等を添付し、その結果を投稿者に報告する。
4. 投稿された原稿の掲載の決定は査読者の意見を参考にして紀要委員会が行う。

### 【発行および編集】

1. 本誌は年一回発行とし、発行日は3月末日とする。
2. 本誌の発行者はリハビリテーション学科長とする。

### 【原稿送り先】

〒981-8551 宮城県青葉区国見6丁目45-1

東北文化学園大学 医療福祉学部 「リハビリテーション学科紀要委員長」 宛

## 編集後記

先日とある研究会において、本学名誉教授の長崎浩先生の講演を聞いてまいりました。バイオ科学と政策科学というタイトルで、STAP細胞や地震予知、原発の安全性を高めるなどの現在の科学は、保守的な（と長崎先生はおっしゃいました）自然科学の知識生産方法からかけ離れている、というお話でした。

日本において少子高齢化が指摘されずいぶんの年月が経っています。確かに小生が子供だった時代より高齢者人口はかなり増加しております。当然高齢化に関する研究への社会的要請も多くなり、リハビリテーション学科における研究も政策科学的な発想が求められるかもしれません。

もちろん、小生は、政策科学がいけないとか、役に立たないとか、いうつもりは毛頭ありません。しかし何か実用的なものばかりを追いかけていくと、その裏に潜む「本質」が軽視されるような気がします。リハビリテーション学科における「本質」とは人間そのものだと小生は思います。

人間の見方は数限りなくあると思います。今回の紀要においても教育、高齢者、運動生理、臨床と多種類の論文が掲載されております。長崎先生の話聞きながら、これからも本質である人間を様々な角度から論じられる紀要にしていきたい、と感じた次第です。

（西澤 記）

## 編集委員会

西澤 哲 津田丈秀 島田洋一 横塚美恵子 古林俊晃 辻川 寛 太田千尋

東北文化学園大学医療福祉学部

リハビリテーション学科 紀要

第10巻11巻合併巻

2015年3月25日発行

発行者 東北文化学園大学医療福祉学部

リハビリテーション学科 学科長

編集 紀要編集委員会

〒989-8551 仙台市青葉区国見 6-45-1

TEL : 022 (233) 3110 (代表)

Memoirs of the Tohoku Bunka Gakuen University  
Faculty of Medical Science & Welfare, Department of Rehabilitation  
~ Rehabilitation Science ~  
Vol. 10 • 11, No. 1, 2015

[Original article]

Gluteus maximus muscle activity during isometric contraction on hip adduction  
..... Hiroto Suzuki, et al.

Relationship between average walking counts per day and E-SAS in community-dwelling elderly  
..... Makoto Suzuki, et al.

Examination of Physical Therapists of Viewpoints in Special Needs Schools  
- Consideration by an attitude survey from a teacher -  
..... Tadayoshi Yoshida, et al.

Comprehending the effect on learning attitudes through a breakfast program  
..... Toshiaki Furubayashi, et al.

[Clinical report]

A case of rhegmatogenous retinal detachment with Phakic intraocular lens  
..... Koji Kadoya, et al.

Effectiveness of Weighted Noise Voice Treatment in a Aphonic Patient associated with Progressive  
Supranuclear Palsy - Voice Treatment Applying Lombard Effect -  
..... Nobuo Takahashi